

令和7年11月26日研究公開報告

令和6・7年度大隅地区研究協力校研究公開

大崎町立大崎中学校で

「道徳科」についての研究公開 が開催されました。

令和7年11月26日（水）に、大崎町立大崎中学校にて、大隅地区研究協力校「道徳科」の研究公開が行われました。大崎中学校では、「生徒が主体的に考え、議論する道徳科の授業づくり～思考を深める活動の工夫を通して～」をテーマに2年間の実践的な研究に取り組んできました。当日は、全校道徳や1年生、3年生の授業を公開し、生徒一人一人が、自分の考えをもち、積極的に友達と意見を交流しながら、自分の考えを深めていく姿が見られました。研究協議では、授業づくりや実践への生かし方について、活発な意見交流が行われ、また、文部科学省の堀田竜次教科調査官による講演も行われ、今後の道徳教育につながる有意義な研究公開となりました。



【閉会のあいさつ】
茂岡 泰弘 校長先生

【研究発表】 研修系の肱岡教諭による発表では、「他者との交流を通して自分の考えをもてる生徒」が増えてきた理由が示され、たいへん意義深い研究発表となりました。

【具体的な取組Ⅰ】

「内容項目に迫るための「中心発問の工夫」

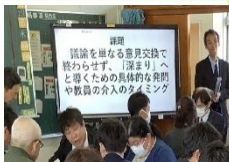
- 生徒が、自分自身との関わりを通して考えを深めることができる発問にする。
- 生徒が、様々な視点から多面的、多角的に考えることができる発問にする。

【具体的な取組Ⅱ】

「自他の意見を交流する場」の工夫

- 全員が発表する「全員発表」や自由に席を離れ、気になる意見の生徒と意見を交わす「交流タイム」の時間をつくる。
- 「グループ交流」では、自分と異なる考えの生徒や、同じ考えであっても理由が違う生徒と質問し合う。

【授業研究】 「授業研究の柱」に基づき、活発な協議が行われました。参加者からは「子供たちが主体的に考え、相手の意見をよく聞きながら、自分の意見を深めていく姿が印象的だった。」など、様々な意見が出され、有意義な時間となりました。【授業研究の様子】



【講演】 堀田教科調査官から、「次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方」や『「考え、議論する道徳」に生かす指導方法の工夫』についてお話いただき、改めて道徳教育の大切さを実感することができました。



【講演】
堀田竜次 教科調査官

【全校道徳】

内容 友達がいじめられていることを先生に伝えるか

異学年6人グループで、3年生がファシリテーターを務めながら一人ずつ自分の考えとその理由を発表しました。生徒会による全体の司会進行も見事で、四つのグループの意見を全体で共有し、実りのある交流の場となりました。



【全校道徳の様子】

【公開授業：第1・3学年 道徳科】

主題名 よりよい社会のために【社会参画、公共の精神】

資料名 あったほうがいい？（日本文教出版1年）

1年生では、「ゴミ箱の設置」という社会問題をきっかけに、「皆が過ごしやすい環境・社会にするために必要な心構え」について考えました。グループや全体の場で、理由に基づいて積極的に意見を交流しながら、生徒一人一人が自分の考え深めました。



【1年生の様子】

主題名 法やきまりの意義【遵法精神・公德心】

資料名 二通の手紙（日本文教出版3年）

3年生では、登場人物の葛藤や心の揺れに着目しながら、相手の立場に立って考え、自分ならどうするかを真剣に話し合いました。グループ交流や全体交流では、考えの違いを受け止め合いながら意見を深める姿が多く見られ、主体的に学び合う姿が見られました。



【3年生の様子】